



4	地域等との協働	<p>・共生社会の実現に向け、障害のある子どもの理解者・支援者を増やすために地域とのつながりを広げ、深める教育活動を展開する。</p>	<p>・地域の理解者・支援者の拡大を図る。</p>	<p>(1)「児童生徒の自立と社会参加」の実現に繋がる取組を組織的に展開するとともに内容の充実を図る。</p> <p>(2)居住地交流、学校間交流の目的や内容を整理するとともに成果の積み上げと学習内容の充実を図る。</p> <p>(3)学校周辺の自治会関係者や地域住民の学校主催イベントへの参加者数を増やす。</p> <p>(4)福祉避難所事業による地域との協働の推進を図る。</p>	<p>(1)①「児童生徒の自立と社会参加」の実現に繋がる取組を組織的かつ具体的に展開することができたか。</p> <p>(1)②取組内容を系統化し積み上げを図ることができたか。</p> <p>(2)①居住地交流、学校間交流の目的や内容を整理したか。</p> <p>(2)②成果を評価し学習内容の充実と積み上げを図ることができたか。</p> <p>(3)学校周辺の自治会関係者や地域住民の学校主催イベントへの参加者数は増加したか。</p> <p>(4)福祉避難所事業に係る新たな取組を行ったか。</p>	<p>(1)①②地域の外部機関と連携したケース会を積極的に設定した。地域交流行事の内容の充実を図った。</p> <p>(2)①②交流先の児童と双方の教員にアンケートを行い課題点等を整理した。金井祭への生徒参加方法の見直しを図った。</p> <p>(3)鎌養祭等の行事に地域住民の方々などの程度参加したかを把握することができた。</p> <p>(4)地域の方の参加を得た防災ツアーの実施ができた。福祉避難所に関連するマニュアル等の内容や文言を整理することができた。</p>	<p>(1)①②外部機関との連携の強化拡充を図る。</p> <p>(2)①②アンケート結果に基づいた課題改善の取り組みを行う。共同学習等を学習指導要領と関連付けて整理する必要がある。</p> <p>(3)地域住民の方々の本校に対する意見や要望を吸い上げる取り組みも必要。</p> <p>(4)福祉避難所準備委員会が共通理解されたことを具体化しさらに取り組みを推進する必要がある。</p>	<p>・保護者評価平均2.0(4点満点)</p> <p>・外部と繋がるという意識を持つことが大切であり、保護者や来校者への教職員の挨拶の励行が求められる。</p> <p>・学校主催地域連携行事における外部連携担当部署間の情報共有の徹底が求められる。</p> <p>・子どもニーズにマッチしていると思われるイベント案内の配付がある場合の参加を促す個別の声かけがあると更に良い。</p>	<p>(1)外部機関と連携したケース会を積極的に設定するとともに地域交流行事の内容の充実を図った。教職員の地域との繋がりに対する意識の向上が求められている。</p> <p>(2)交流先の児童と双方の教職員にアンケートを行い課題点等を整理した。結果を生かし内容の充実を図っていく。分教室では金井祭への参加目的を整理し生徒参加方法の見直しを図った。</p> <p>(3)鎌養祭への地域住民の参加者数は35名であった。把握内容を充実させ地域との繋がりを深める工夫に生かしたい。</p> <p>(4)地域の方の参加を得た防災ツアーの実施ができた。福祉避難所に関連するマニュアル等の内容や文言を整理することができた。</p>	<p>(1)外部機関との連携の更なる強化拡充を図る。教職員による地域住民等へのあいさつ運動に計画的継続的に取り組む。</p> <p>(2)共同学習等を学習指導要領と関連付けて整理するとともに、アンケート結果に基づいた課題の改善に向け取り組む。</p> <p>(3)地域住民の方々の本校に対する意見や要望を吸い上げるなど、行事の受付業務の改善充実を図る。</p> <p>(4)福祉避難所準備委員会が共通理解されたことを具体的に取り組みを推進していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。</p> <p>・安全で安心できる指導体制、管理体制の整備を進める。</p>	<p>・児童生徒の安全と健康に配慮した指導体制や管理体制の改善が持続的に行われる仕組みを整える。</p>	<p>(1)知的障害教育部門生徒の実態に即したヒヤリハット・アクシデント報告書を作成するとともに、ヒヤリハット・アクシデントの解消に向けたPDCAサイクル化を図るための行動化につながる取組を行う。</p> <p>(2)安全な指導体制づくりにつながる専門性の維持向上を図るための取組を行う。</p>	<p>(1)①知的部門用のヒヤリハット・アクシデント報告書を作成したか。</p> <p>(1)②ヒヤリハット・アクシデント報告書を活用した事故予防的な対策の行動化につながる持続的な改善の仕組みを整えることができたか。</p> <p>(2)安全な指導体制づくりにつながる研修を系統的かつ段階的に行ったか。</p>	<p>(1)①B部門特有の事例を分析し様式を整えることが出来た。</p> <p>(1)②定期的な報告書の回覧に加え各部門のケースを分析した傾向と対策の共通理解を図り未然防止の意識を高めた。</p> <p>(2)人権研修会等の研修を開催し不適切な指導や事故防止に対する意識を高めることができた。</p>	<p>(1)①様式の活用と成果の検証に取り組む。</p> <p>(1)②事故防止の未然防止に繋がる持続可能な仕組み作りが求められる。</p> <p>(2)研修会で得たことが指導場面にどう活かされたのかを検証する必要がある。また、職員の参加率に課題があり、実施時期の検討や参加対象の明確化等が必要。</p>	<p>・保護者評価平均3.3(4点満点)</p> <p>・配慮食安定供給に関する課題の解決に早急に取り組む必要が有る。</p> <p>・荒天時の登校判断を保護者が柔軟にできる仕組みが有ると良い。</p>	<p>(1)知的障害教育部門特有の事例を分析し様式を整えた。定期的な報告書の回覧に加え各部門のケースを分析した傾向と対策の共通理解を図り未然防止の意識を高めた。取組の地道な継続が求められる。</p> <p>(2)人権研修会等の研修を開催し不適切な指導や事故防止に対する意識を高めることができた。実践的な取り組みに生かしたい。</p>	<p>(1)様式の活用と成果の検証に取り組む。定期回覧や報告会などの取り組みを継続し事故の未然防止に繋げていく。また、今年度の報告書を「傾向と対策」リリースなどの成果物に結びつける。</p> <p>(2)研修の充実を図る。教職員の人権意識を高めるとともに不適切な指導の未然防止を図るために児童生徒の呼び捨てを廃し適切な「敬称・呼称」の徹底を図る。</p>